



ジャスティス

JUSTICE

コンセプト

自らを変える!! 明日を創る!!
イースト イノベーション!!

ジェイアール・イーストユニオン

発行責任者 菅野一位
編集責任者 瀬戸信作〒105-0021
東京都港区東新橋2-8-28
TEL (J R) 057-7333
TEL (NTT) 03-6452-9687ホームページ検索
「J R E ユニオン」

第6回 定期大会・運動方針 (案)

職場討議資料 (要旨)

J R E ユニオンは平成30年7月9日、東京都内において第6回定期大会を開催する。

いま、J R 東日本の労使関係は国鉄改革以来、最大の試練を迎えている。J R 連合に加盟するJ R E ユニオンは、お客さまの信頼なくしてJ R 東日本の発展や存在価値はないと考えている。

私たちを取り巻く課題は山積している。安全問題、民主化闘争勝利、労働条件の維持・向上等、全ての課題克服の鍵は組織拡大と共にある。これまでの1年間を振り返るとともに、次なる1年の運動方針について建設的な討議を行い本定期大会の成功に向けて意思統一を図っていただくことを強く要請する。

はじめに

J R 発足から31年目の春に東日本の労働者に激震が走っています。2月産経新聞が「JR東労組・スト検討」と一面で報じ、東労組の瓦解が始まりました。時を同じく川合参議院議員からJR総連改革マ

は組合員に理解と協力を呼びかけました。更に会社は東労組に対して「労使共同宣言の失効」を通告、良識ある組合員はこの会社の判断に呼応するかの脱退が始まりました。2月には150名の脱退者が3月には1万4千人に、4月には2万8千人、5月には3万2千人が東労組に見切りをつきました。JR東労組が勝手に崩壊への道をたどったのではありません。私たちJR連合に所属してからは、そしてイーストユニオンとしても、20数年来に渡り革マル派の浸透に警鐘を鳴らし、国家的

緊張問題ととらえ、訴え続けてきたからこそそのJR東労組の崩壊であり、まさしく私たちの粘りつよい運動が、今日のJR東日本における労政転換への一筋の道筋をつけたものであると確信しています。これから30年、JR東日本はどのような成長を続けて行くのでしょうか。少子高齢化、生産年齢人口の減少、首都圏への一極集中、技術革新、AI人口知能の活用等々を多くの課題を受け、私たちの働き方、仕事の内容、また私たちの生活は大きく変わるものと思います。この現実を受け止め大胆な発想と自己の変革なくして時代は乗り切れぬのだと思います。そして成長を続けて行かなければ、社員の働きがいや家族の幸せはないものと思えます。しかし、このよ

スローガン (案)
安全の確立と、民主的企業内労働組合の構築に向け、全組合員で組織拡大を加速させ、民主化闘争を完遂しよう!

サブスローガン

1. 安全最優先の職場風土の深度化を図り、JR連合「安全指針」を軸に、「お客さまの死傷事故、すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を達成しよう!
2. 新たな歴史を創るため、安心してご利用いただける鉄道をめざし、安全の確立はもとより、JR東日本にあるべき労使関係の構図を描き・築き上げ、社会の厚い信頼を獲得しよう!
3. 明日を創造する運動の積み重ねで、ビッグイノベーションを確固たるものとし、今こそ組織拡大を成し遂げ、民主化闘争の完遂、JR連合10万人の目標を達成しよう!
4. 「連合」に参集する仲間の連帯で、「働くことを軸とした安心社会」の構築をめざすため、雇用を守り、労働者の尊厳を高める労働条件の維持・向上をさらに推し進めて行こう!

「成長」には繋がらないのではないかと感じます。今こそ労働組合の魅力や役割を多くの組合未加入社員に伝え、目指すべく次の30年に向けて「あるべき労働組合像・労使関係像」を継承させなければならぬと思います。私たちはこの10年で安心できるしつかりとした根



組織拡大の成果を全体で確認し**更なる組織拡大に繋げよう！**

- ・平成29年12月
新潟地本において1名 組織拡大
- ・平成30年 5月
東京地本において3名 組織拡大
- ・平成30年 6月
仙台地本において1名 組織拡大

運動の基調

を植え付けて行かなければなりません。
「万里一空」目標を見失うことなく、やるべきことを見失わず、これまでの一年間を振り返るとともに、この一年間にかける思いを全組合員で共有し、「平成30年度運動方針（案）」について真摯な討論を要請します。

私たちの取り巻く状況が激変しています。環境の変化、働き方の変化、職場の変化等々です。しかし私たちが譲れないものは「安全の確立」です。いついかなるときにも、「安全」に勝るものはない

いと肝に銘じあたらなければなりません。一度失った信頼は取り戻すのは容易ではありません。昨年、新幹線で初めての重大インシデントが発生しました。決して他人事とすることなく、自分の身にも起きることだと緊張感を持ち業務にあたらなければなりません。「お客さまの死傷事故とすべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を私たちの命題と重く受け止めます。真摯に取り組んでい

はいきません。ここにきて東労組は、2018春闘の反省と組織の自らの独善的運営を問うてい

せん。そして組織拡大を伴った民主化闘争勝利を見据えねばなりません。この一年が本当に本当の最後の戦いです。あらゆる英知と行動力で組織を挙げてこの闘いに勝利しましょう。

安全の確立に向けた取り組み

少子高齢化、生産年齢人口の減少が進んでいく中、若手社員、特に設備系社員の確保が難しくなっています。そのような背景の中、会社は矢継ぎ早に様々な施策を提案し、また、実施しています。これからの30年を見据え、安定経営を続けていくため会社施策は一定の理解はするものの、「安全」が本心に保たれていくのか、疑問を感じざるを得ません。

訓練により、グループ一

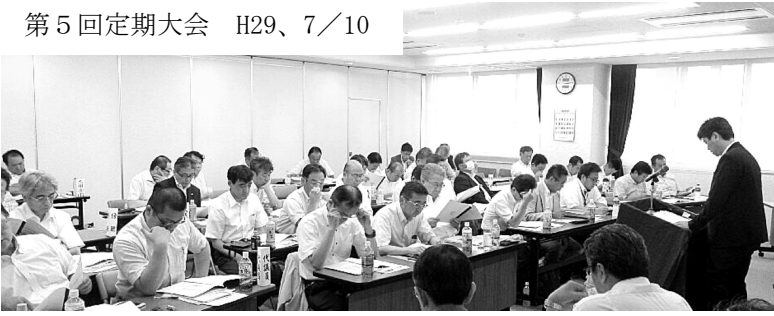
民主化闘争・組織強化拡大の取り組み

労働運動への信頼と結びつき、会社内での一定の影響力を格段に強化することによって、要求実現と組織拡大強化の好循環、相乗効果を創り出していきます。

組織の現状をしつかり分析し、すべての運動を組織拡大につながる取り組みを強化します。また、私たちの運動に評論家は

「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との基本理念のもと、私たちは、今後もJR連合の各種委員会や集会に積極的に参加をし、私たちの考えを伝えるとともに、安全確立に向けた取り組みを深度化させていきます。

第5回定期大会 H29、7/10



た、相互理解を目的とする旺盛な「総対話運動」の展開などによって組織拡大をはかります。さらに単発的運動から運動の反復化によって運動の深度を図ります。

JR退職後の安心・安定社会を構築し、生き甲斐のある社会を創造します。さらに、いつまでも仲間との絆を大切にし、その輪を一層大きなものとするための運動の創造に寄

与します。

青年・女性層において組織拡大を重視した運動を展開していきます。また、拡大目標の中で青年・女性分野の拡大目標を、組織独自に位置づける、若年層・女性分野独自の要求を追及するなど工夫した運動を構築していきます。次世代育成対策の一環として、初級教育制度の円滑な継続をはじめ、教育制度を引き続き充実させていきます。

働きがいのある会社、労働条件の向上をめざして

安全の確立を含む新人教育、技術継承の在り方について人材育成の為に現場第一線の声を具体的に反映させます。

経営協議会、団体交渉など労使協議の場を通じ、組合員の労働条件の維持向上改善に努めるとともに会社の発展、株主利益確保に取り組みます。

人を伸ばし、人を生かす企業風土づくりの実現を目指す、「ダイバーシティ・マネジメントの推進」に取り組みます。また、JR連合男女平等参画推進委員会の提唱する女

性社員活躍の場推進に取り組みます。

エルダー制度の充実に向けて取り組めます。

2019春季生活闘争に向けて

私たちは2019春季生活闘争においても、JR連合加盟各単組との連携と一体となった取組みを進めることとし、JR連合の春闘方針に則し、今年度が最終年度となる「中期労働政策ビジョン(2014-2018)」で掲げた「JR関係労働者に相応しい働き方」の具現化に向けた取組みを図っていきます。そのためには単年度の春季生活闘争の丁寧な積み重ねと継続が必要です。賃金をはじめとして、ワーク・ライフ・バランスの実現、働きがいある労働条件を求め、労働時間や休日、休暇といった労働条件を構成するすべての項目を点検し改善を図る「総合生活改善闘争」として、全組合員が一丸となった取組みを進めることとします。

私たちがJR東日本において、産別を代表する「イースト春闘」の構築をめざすとともに、あわせて、異常な労政の転換、真のパートナートとなるための闘い「JR東日本の民主化実現」をめざすべく、あらゆる運動を連動し組織拡大に繋げていかなければなりません。さらに現状を大きく変革することが必要です。私たちの掲げる「イーストイノベーション」を、全体で力を合わせ、確固たるものにしていきましょう。具体的な春闘方針については、来年2月に開催する「第5回中央委員会」において決定します。

政策活動について

私たちイーストユニオンは、地域の活性化に資する総合交通体系を構築するとともに、鉄道産業の明るい展望を創り出すべく、JR連合の仲間とともに今後の鉄道のあり方、あるべき方向性を打ち出すため政策活動を取り組んでいます。

地域に密着し、地域の皆様に愛される鉄道を目指し、住民の足としての重要な役割を果たしていることを認識し、この間労使で様々な課題を取り組んで来ましたが、新幹線、在来線の運輸

収入の増加、インバウンドによる外国人の客さまの急増や東京駅等の店舗売上が好調、JR新宿ミライナタワーのオフィスフロアへの入居、などもあり、業績は好調に推移していますが、今後の人口減少、更には地方路線の客さまは大きく減少、自然災害による鉄道被災、鉄道施設の老朽化に対する対応等、取り巻く環境は厳しさを増しています。

中長期的な視野で出された「鉄道特性活性化PT」の最終答申の骨子である「チーム公共交通」「チーム地域共創」の具現化に向けた取り組みに積極的に参加していくとともに、災害復旧や防災強化に向けた取り組みが重要な課題です。

また、政府は2019年4月の改正法施工を目指し「働き方改革関連法案」を可決する方向にあります。

これらの動向を踏まえJR連合では産業政策の視点を含め、働き方や労働条件全般に関する議論を進めるため「中期労働政策ビジョンPT」を発足させました。

活動を通じ、JR産業をJR7社と一体的に支えるグループ会社の諸労働条件向上等に向け専門部会を設置しながら活動していきます。

今後も引き続きJR連合の仲間とともに私たちの政策活動への理解ある国會議員・地方議員と連携を取りながら、政策課題の解決に向けた取り組みを展開・強化していきます。

教育活動について

運動を活性化させ、絆をより強固にするためには正確でタイムリーな情報の共有が必要です。更に分かりやすく親しまれる情報発行をめざして教育活動を進めます。

私たちの主張、運動をJR東日本の多くの社員やJRユニオンに興味を持って潜在的な仲間に対して、さらに社外の方々に伝える効果的な広報ツールとして、本部は「ホームページ」のタイムリーな更新とリンクの活用や色々のバージョンアップに努めています。

私たちが求める民主的

労働運動の定着については、100の言葉より実践が大切であるとの認識から、思いやりのある行動として、「みんなは一人の為に一人はみんなの為に」を念頭に置いた教育的視点を大切にした行動を進めてきました。

労働組合の活動は人によつて成り立っています。私たちが活力のある運動を継続していくためには、仲間の一人ひとりが私たちの組合の理念や目的、その活動を理解しながら運動を引っ張っていくリーダーや活動家をあらゆる職場で育てることが大切です。

新たな組織創造へのイーストイノベーションについて

私たちイーストユニオンは、JR東日本グループの中で働く「社員として・社会生活の一員として・幸せな人生が送れるようにするための労働組合づくり」について、組合員で考え、組合員自らがともに行動するための「イノベーション」された新しい組織が必要であると考えています。

今後の政治活動に向けて

今後の政治活動については、その重要性を認識しながらJR連合「チーム公共交通」「チーム地域共創」の取り組みとともに、「JR連合国会議員懇談会」及び「21世紀を考える鉄道フォーラム」との連携を図りながら、イーストユニオンの支持する国会議員の創出に取り組みんでいきます。

JR東日本に関わる政策の実現や鉄道の安全問題をはじめとする様々な政策、交通政策の実現に向けた、取り組みをしていかなければなりません。

また、総がかりでの民主化闘争完遂に向けて、JR連合国会議員懇談会及び「21世紀を考える鉄道フォーラム」からも支援を得ながら、政府官邸への革マル派浸透問題の解決に向けて、現状のJR東労組の瓦解を最大の好機と捉え、強力的に取り組んでいきます。

イーストユニオン地方議員団となる春日部市議会議員 井上えいじ氏及び亘理町議会議員小野一雄氏との連携を図りながら、

地方交通での課題解決に向けて、各地方で支持する県議・市議・町議等との交流関わりの深度化を進めていきます。

第25回参議院議員選挙は、U・Aゼンセンからの比例区推薦候補者「田村まみ」候補（イオン労組・国民民主党）への取り組みとし、イーストユニオンの組織総力戦で当選を勝ち取るべく支援の展開をいたします。

併せて、JR連合が推薦する重点候補者の全員当選に向けて、取り組みを進めます。

福利厚生（省略）

財政の確立（省略）

当面の組織運営（省略）

人災にも
天災にも
頼れる共済。



みんなが助け合える共済
共済 交通共済
（全国労働組合連合会加盟）

家族の幸せを災害から守る
火災共済/地震風水害共済/
交通災害共済/生命共済/入院共済